

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391200112		
法人名	有限会社 さかがわ		
事業所名	グループホーム椿		
所在地	熊本県上天草市龍ヶ岳町高戸1237-15		
自己評価作成日	平成31年3月3日	評価結果市町村受理日	令和元年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成31年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地の良さと職員体制の充実性を生かし日々近隣の方からの魚や野菜の差し入れでの調理・家事全般・外出・行事から個別支援までご利用者様の思いに沿った支援が出来る環境にあります。職員は認知症という病気についての研修会参加で利用者様と真剣に向き合い自立支援と尊厳保持を念頭にご家族様の思いに寄り添い安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の花「椿」を事業所名に取り入れ開所3年目を迎えたホームは、地域との関係性も更に深まり入居者は職員と一緒に穏やかな時間を過ごしている。ホームの裏手が海という事もあり、船や遠くの島々をながめる事で安心される方、地域の方からの差し入れを活かしながら新鮮な魚や海産物を使った日々の料理に満足の声をあげる方など、生まれ育った天草での生活は有意義な日常生活となっている。高齢の入居者を支えるホームにとって、歩行が可能であれば徒歩でも通院できる協力医療機関の存在は心強く、日頃から連携を図り適切な医療支援に繋げている。日常生活は強要することなく本人の出来る事、やりたいことを聞き取りや普段の関わりから推察し支援することで、一人ひとりのこれまでを労い穏やかな時間が継続できるよう、チームワークでケアにあたっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設より3年を迎えましたが、理念は変えずに職員休憩所・リビング・玄関に掲示し出勤時や申し送り毎に意識して確認し実践している。	本年度理念を見直した結果、現行のままで運営することを決定している。理念をケア指針としながら、具体的な短期目標を3カ月ごとに設定し、評価しながらケアの充実を目指している。短期目標については運営推進会議でも報告して、ホームの取組みを啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や催し物に参加し施設外の散歩やドライブに買い物を通して利用者様には近隣の方との会話を楽しまれたりと日常的に交流されている。来年度は、ボランティアを御願いし交流を深めていきたい。	自治会に代表者が入っており、新年の集まりに参加して地域情報を得たり、友好な関係継続に努めている。入居者は日頃からホーム周辺を散歩して、馴染みの人々と立ち話を楽しみ、差し入れ野菜を調理に活用しながら、近隣との交流を継続している。地元看護学校生の短時間のアルバイト受け入れは、入居者の生活に張りをもたらし、夕食を共に摂りながら、就寝前後のひと時を支援している。	本年度は保育園児との交流が途切れてしまったようであり、4月の統廃合により新たにスタートする地域の保育園との交流が、再開されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の行事には家族の方に参加していただき支援し病院受診などで近隣の方々の出会いの中で認知症を理解していただき良い関係が築かれている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	周辺地域の消防団の方や民生委員の方が多数参加あり日々の活動や入退居や職員研修等の報告が主で参加者様からの発言や意見も多く職員にも都度周知しサービスの質の向上に取り組んでいる。	リビングホールを会場としており、参加者は開始前後に入居者と会話し、様子を確認することで、会議内容の把握に繋がっている。入居者の現状や活動内容、事故や職員異動について報告を行い、身体拘束適正委員会を設置して、ホームの基本姿勢を示し、共に検討する時間を持っている。行政、駐在所、消防署や協力医療機関、地域や家族代表者など変わらぬ地域の協力が得られている。	会議メンバーからも地域からの多大な協力の様子がうかがえる。新年度はそれぞれの立場から発言してもらう機会を設定したり、食事、排泄、入浴などテーマごとにホームの日常を伝えることなども検討したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施担当や包括職員に運営推進会議には可能な限り出席していただき実情を報告し意見を助言してもらっている。県支部の連絡協議会の研修にも参加し情報収集や意見を持ちいて事業所間の協力関係を大切にしている。	行政や警察、消防など行政関係の主たる機関が運営推進会議に参加しており、ホームの現状を発信しながら情報を共有し、運営に反映させている。行政からの研修案内には出来る限り参加して、ケア向上に取り入れる様努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で定期的な研修会を実施し拘束することに対する意見や話し合いをもち理解してもらっている。運営推進会議には年2回の身体拘束適正化委員会を発足している。	職員はホーム内・外の研修に参加し、身体拘束の認識を深めるとともに、テレビなどの情報から事例を通じ、話し合いの時間を持っている。人感センサーやセンサーマットを使用する入居者には、使用目的などを家族へ説明しプランに入れている。管理者は職員のストレスケアに対し、様子を見ながらケアや勤務の交代を促し、夜勤後の声掛けや希望休に応じながらストレスをため込まない様工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内・外の研修を学び虐待について深く考え自己を振り返りながら日々のケアに取り組んでいる。高齢者の虐待が新聞記事で記載された時はその旨代表者より職員への周知があり次回のミーティング時に議題として取り上げケアの見直しをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回に研修案内があり毎年違う職員が参加し権利擁護について学んでいる。必要時などは包括支援センターに相談しアドバイスをもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には重要事項説明書について一項目ずつ説明し不安や疑問点を確認してご理解いただき納得していただいで契約をおこなっている。改正等があればご家族様へ連絡しその旨の主旨はお話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時や日常の会話で聞いたことなどの情報を職員で共用している。ご家族様にはその都度の様子を報告し意見を反映出来るように努力している。	家族の面会時には入居者の現状を伝えながら、直接意見や要望を聞くように努めている。広報誌「つばきだより」で月の入居者の表情を発信しており、家族の楽しみと安心に繋がっている。入居者の意見は日々の関りの中で尋ね、〇〇へ行きたい、〇〇を食べたいなどの意見があがっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティング時で業務や運営に関する課題を見だし代表者・管理者・職員で話し合い運営体制の見直しや改善に取り組んで反映させていくように努力している。	職員は普段から意見や要望を自由に発言しており、必要な内容は月のミーティングで代表者を交えながら検討している。試験当日を有給扱いにするなど資格取得への後押しや、管理者による個人面談を通じ、職員の相談事や質問に応じながら風通しの良い運営を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境の改善に積極的に取り組み給与改善・職員体制の充実など十分な配慮も行っている。職員もそのことに関して理解している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、自ら研修に参加し職員にも施設内外への参加を積極的に促している。又、法人内での人事交流会など受け連携を深めている。職員もその期待に応えられるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修・合同職員研修会に管理者や職員が参加し情報交換しサービス向上を目標に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談をしご本人様の今後の要望・不安などを聞き取り思いを知る努力をしています。ご家族様の協力体制などを検討し環境の変化のとまどいを軽減するため取り組みご本人様の意見を聞きながら安心されるための関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には利用者様及びご家族様の方々と入所時に不安な点又は要望等を聞きいれすべて書面に残すようにしている。また定期的にご家族様と連絡を取り状況報告し新たな要望など聞きいれ関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様が現段階で一番必要なサービスについて話し合い把握した上で付属のサービスについても説明し理解されている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	強要することなくご本人様の出来ることややりたいことの思いを実行することでかけがいのない一人の人として辛いホームで暮らす余生を一緒に笑顔で楽しめる環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様を支えるという思いをご家族様と共用し遠方のご家族様にも密に連絡を取り共に協力しあえる環境をきずいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様の馴染みの場所や人が多く集める場所に行き昔からの関係が途切れないように支援するように努力している。	入居者にとってホームでの暮らしが馴染みとなり、船の操縦をされていた方と海の匂いや、船の様子を散歩を兼ねて見に出かけたり、入浴を勧める職員に、「昼間入って良かったかい！」「男の人たち入ったかい？」など、他者を案じられる女性などホームの落ち着いた日々を垣間見る事が出来る。職員と一緒に嗜好品の購入や、受診への外出から地域出かけたり、通りに接するリビングは“縁側交流”として、道行く人々との会話の場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の身体状態や性格などを把握し孤立されないように利用者様同士で支え合い助け合えていける環境づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や病院に移られても必要な情報は提供している。転移されて方に対しても面会をしご家族様にも毎年賀状を送り関係が切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向をケアプランに反映させている。思いが汲みとれない方に対してはご家族様の意向を確認するなどご本人様からみた暮らし方や支援してほしいことを見極めるように努めている。	普段の関わりから入居者の暮らし方の希望や思いを聞き取り、プランに反映させている。家族には面会時に近況を伝えながら意向を確認し、遠方の方には電話で思いを組み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様の話を聞きいれこれまでの生活の様子を知り大切にしていたことや馴染みのもの・場所・趣味など続けられるような環境づくりなどを支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の過ごし方や健康状態を把握し記録と情報の共有に努め話しあうようにしている。利用者様が残存機能や有する力などを維持できるようにとりにくんでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状把握に努めるとともに利用者様やご家族様の意向を聞きいれ職員間で日常生活でのケアのあり方について意見を出し合うことで無理のない計画作成を行う。	本人や家族の意向を優先し、ホームでの暮らしが入居者の笑顔を引き出すことが出来るような内容を立案している。入居間もない方の「皆と仲良くしたい」との思いに本人の馴染みの品を活用しながら、洗濯たみなど出来ることを通じ、他者との関係作りを盛り込んでいる。また、排泄の失敗が目立ってきた方へは、布パンツの2枚重ねや、布と尿取りの併用により日中のトイレでの排泄を支援し、失敗を減らす工夫や入居者の自信に繋がる内容としている。半年ごとに評価し現状に即したものとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄・食事量・バイタルなど一覧出来るよう情報の共用に努めている。記録はご本人様が発せられた言葉や客観的事実を記すようにしている。気付きは職員同士で共用し日々の申し送りなどでその時の状況に応じたベストな状態を検討し支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間や外出時間などはご家族様の希望に合わせている。そのほかの支援についてはご本人様・ご家族様の要望に合わせて多様な支援や多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加して一人ひとりの利用者様が楽しむ事が出来るように支援している。ボランティア訪問や病院や教育機関等を把握し暮らしの継続を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ本人様やご家族様に添ったかかりつけ医を中心として個人に合った適切な医療を受けられるように支援している。往診の他に受診が必要な場合や希望がある時は受診に付きそっている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、協力医療機関による往診や必要に応じた受診、これまでの医療機関へ職員による受診を支援している。日頃の健康管理は、看護職員を中心に行っており、言動や行動など気になることがあれば、早めに主治医へ報告し、指示を仰いでいる。口腔ケアについては、定期的な訪問歯科の利用や、毎食後の歯磨きを支援しており、歯ブラシなども、歯科医院より適切なものを購入している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で利用者様の行動や発言などを常に観察しつつも違う発見や異常・変化に気付いた時は看護師や管理者に報告相談し協力医や担当医の指示を仰ぐ体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の入院や退院には必ず職員が付き添い入院手続きや説明を聞く。入院先の医療連携室と連絡を密に行い入院中の状態や早期の退院や退院後について相談や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については今の時点では対応に限りがあることを口頭でご家族様に説明している。今後地域の関係者の方々と共に看取りについて連携を図りながらご本人様やご家族様の意向を聞きいれながら確認し支援していきたい。	重度化・終末期支援に関しては、協力医と連携しながらホームに出来るところまで行うことを方針とし、入居時に説明を行っている。今後も入居者の変化時に限らず、必要に応じて家族の意向を確認しながら、ホームの現状で行えること、方向性について話し合っていくたいとしている。	近隣にある協力医療機関との連携や看護に精通した運営者の存在は、家族や職員にとっても心強いものとなっている。今後も日頃の関わりを大切に、ホームに出来る最良の支援を継続していかれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に報告・連絡・相談できる環境づくりをし利用者様の状態に応じながら緊急事態発生時の対応・対処法について日々確認しマニュアルを作成し適切な対応に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練(昼間出火と夜間出火想定)をホーム内で利用者様と全職員参加で実施している。緊急連絡網を整備し緊急時には関係機関や職員への連絡ができる体制を整えている。災害の発生時に備えて常に食品等は備蓄している。	今年度は6月に昼間想定で、3月に消防署の参加で夜間を想定し、消防訓練を実施している。運営推進会議には地域消防団員の参加が得られていることは、心強く日頃から連携が図られている。災害備蓄については、米やカップ麺、水などを確保している。	今後訓練を実施する際は、家族へも参加を呼びかけ、意見や感想などを受ける事も良いと思われる。また、防火管理責任者取得研修への参加も、人材育成に繋がるとと思われる。取組に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様や職員には、誇りもありプライバシーは誰にでも持つ当たり前のことと認識しひとり一人の人格を尊重した声かけなど行い意見や思いを聞きいれるよう心がけ誰もが自信を持って生活できるように配慮している。	一人ひとりの入居者の持つおられる誇りを損なわないよう、職員は声掛けを含め支援方法を共有し対応している。身だしなみやおしゃれについて、家族より同じ衣服を着ている機会が多いのでは？の意見を受け、本人の選択であり尊重しながら、異なる衣服を前にセットするなど工夫している。写真の掲示をはじめ、個人情報の使用については、本人・家族の承諾を得、職員の守秘義務については、運営者による指導や会議の中でも周知が図られている。	呼称は苗字や下の名など職員間での統一はなされておらず、今後は入居の際、本人・家族に呼称への要望や安心される呼び方など、相談していくことが必要と語っている。職員の判断による呼称は、本人や家族にとって不快になる場合もあり、今後の取組が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら出来ることを取り上げずに見守る事を基本とし決定しやすい環境づくりを配慮するようにしている。自己決定できない方は日々の表情や行動を把握し意志を確認し優先するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務や決まりを優先するのではなく利用者様が出来る限りその日の心身の状態に合わせて希望に沿える一日を過ごしていただくように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみが出来るようにリビングの洗面台には鏡を設置し利用者様自ら衣類を整え季節毎にご家族様に衣替えをお願いし利用者様の着慣れた物、思い出のある洋服でおしゃれを楽しんでいただくよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど出来る範囲で職員と一緒に行って頂いている。また利用者様の誕生日には自ら食べたい物を選んで頂き提供している。それぞれの利用者様の好きな物や体調に合わせた別メニューを用意する等の対応もしている。	専任者が中心に献立や調理を行っている。近隣者からの鮮魚の差し入れを活かした刺身や煮つけ、地元の特産ちりめん料理など、入居者にとっての海の幸は好評である。また、足踏みでこねた団子汁、誕生日メニュー、正月やクリスマス、竹を使ったソーメン流しなど希望や季節を楽しむイベント食も工夫し、入居者に喜んでもらえる食事支援に繋げている。職員も入居者と一緒に同じものを摂ることで、思いを共有しており会話も弾む食事時間であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の一日の総摂取量を観察・記録し過不足について常時検討している。水分補給用のゼリーや食事形態の工夫、好物の提供、個別の食器の使用などその方にあった食生活の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の方に口腔ケアの重要性について学び実践に反映させている。利用者様の自立度に合わせ自分でできる方は促し介助が必要な方は職員が介助している。食前には口腔体操を取り入れ飲み込みがスムーズに出来るよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日一人一人の排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握しその時に合わせた声かけ・誘導しおむつを出来るだけ使用せず布パンツにて対応し排尿感覚など分かるように自立支援している。	把握した排泄パターンを共有し、声かけや誘導、自立の方の継続が出来るようにしている。布パンツに尿取りを併用される方が殆どであるが、布に失禁がある方も脱ぎ履き出来る方には、丈の違うパンツを重ね履きするなど工夫している。安眠や安全面から夜間のみポータブルトイレを使用される方もあり、転倒の心配がないよう配置を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状態を職員が把握しその方に応じた食材を提供している。また水分補給と野菜の繊維質の多い食材の提供。及び牛乳・ヤクルト・ヨーグルトの提供や腸の働きを良くするために運動と体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望にあわせて毎日の方や隔日入浴を支援している。排泄の失敗時や皮膚状態に合わせてシャワー浴も行っている。浴室の温度や室温は利用者様に確認し調整している。	入浴は週3回を基本に足浴も取り入れながら午後から支援している。女性入居者の中には、昼間入浴することを気の毒に思われる方もあり、心配なく入ってもらえるよう言葉かけをしている。入居者や職員にとっても安全な入浴支援であることも、重要視し、機械浴が設置されており、広めの浴槽のため、仲の良い方同士で入る方もおられる。シャンプー類はホームで準備しているが、使い慣れた物があれば持参して欲しい旨を伝えている。	今後も一人ひとりに応じた入浴の楽しみを把握し、支援されることを期待したい。また、浴槽の構造に心配がなければ、菖蒲や柚子湯をはじめとした変わり湯も、入居者にとって楽しめるのではと思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や身体状況に合わせて居室や好みの場所でゆっくりとそれぞれのペースで過ごされている。消灯は利用者様に合わせ寝付けない方へにもご本人のペースに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の仕分けは薬剤師の方にお問い合わせし、必要時にはアドバイスを貰ったり、効果や効能・副作用等について相談し協力体制も充実している。服薬の変更があり病状の変化などがある時は記録しその情報をご家族様やかかり医に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や掃除・洗濯・料理を作る・趣味活動に励むなど意欲的に暮らせるように支援している。季節に応じたドライブや観光・買い物・馴染みの場所や思い出の場所へ出掛けるなど個別にも支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの個別の外出支援には限りがあり外出についてはご家族様に主旨を説明し協力を御願している。戸外にでれる機会があれば本人様の希望を把握し希望に沿えるように支援している。	気候の良い春は近隣の散歩の回数も増え、特に桜の花見は全員、車で10分ほどの公園に手作り弁当を持って出かけている。船を見たいとの要望により裏の海に出かけたり、初詣など可能な限り個別の要望に応えながら、外出の機会を支援している。自宅への外泊や帰省などは、困難な状況になっているが、家族へも出来得る外出への協力を依頼している。	今後は花見をはじめ、家族にも参加を呼びかけ入居者にとって更に楽しい外出となるような取組を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様や利用者様の希望で自己管理出来るように支援している。管理が必要な方でも自由に使えるように配慮し外出時や要望がある時は同行し支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望がある時は電話対応し支援している。事前にご家族様には了解を得ている。手紙を書かれる方には、書かれるような環境作りに切手の購入や手紙の投函などの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光・匂い・湿度・温度など目に見えない環境整備に留意している。季節感を取り入れる為に季節に応じた花を生け季節の応じた壁画を掲示し天気が分かるように窓やカーテンの開閉にも配慮している。	ホーム内は季節や入居者に応じた室温管理を徹底し、特に10、15時には換気の実施が掲示されている。寒さが強い日は入居者に居室で過ごしてもらう間に、リビングの換気を行っている。明るいリビングは、道路から地域の人々が気軽に出入りできるような造りになっており、通行量は少ないが入居者は車や人の往来を見ながら、穏やかな時間を過ごしている。また、イベント時などの写真の掲示は家族と入居者の会話のきっかけにも繋がることが期待されている。	入居者の塗り絵の作品は、直近の物を掲示することで、更に本人の励みや家族にとっても楽しみに繋がると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間にはテーブル椅子の他にソファを設置し思い思いの居場所で好きなように過ごしていただけるように配慮している。廊下にも同様の用にソファや椅子を設置し気の合う方とおしゃべりされ過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際ご家族様・ご本人様には使い慣れた物やこれまでの暮らしに合わせた備品などの持ち込みをお願いし利用者が落ち着いて居心地の良い環境で過ごしていただけるように配慮している。	本人にとって居心地の良い居室となるよう、新しく購入されたものではなく、使い慣れた馴染みの物を持ち込んで欲しいと伝えている。着慣れた衣類や小物ははじめ、個々に応じ様々な品が持ち込まれ、身体状況に応じて歩行や車いすの移動がスムーズに出来るよう、安全な環境にも努めている。日中はリビングで過ごされる方も多いが、昼食後の休憩を居室で取られる方もあり、寝具の整頓や、採光の少ない居室では努めて布団干しを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間の居室内でのPWC使用やトイレ誘導などの身体状態に合わせて対応している。転倒リスクが高い利用者様にはセンサーを利用し放室することによって怪我・転倒がないように安全に努めている。		